



第35号 2021.4.20発行
 発行者：株式会社協進印刷
 編集者：JO編集委員会

すべての人の知る権利を保障する 「情報保障」が求められる時代に

内閣府認証特定非営利活動法人メディア・ユニバーサルデザイン協会理事
 特定非営利活動法人アダプテッドスポーツサポートセンター理事長
 全日本印刷工業組合連合会副会長・大阪府印刷工業組合理事長

浦久保 康裕 さん

大阪青年会議所の活動をきっかけにパラスポーツ支援の活動に従事し、2006年に有志とともにNPO法人アダプテッドスポーツサポートセンターを設立。業界関連では、2006年に全国青年印刷人協議会議長、全日本印刷工業組合連合会CSR推進委員会MUD部会部長などを歴任し、現在は大阪府印刷工業組合理事長、全日本印刷工業組合連合会副会長、CSR推進委員会委員長を兼任。また全国青年印刷人協議会の活動もきっかけに設立されたNPO法人メディア・ユニバーサルデザイン協会理事長も務め、本業である株式会社一心社代表取締役社長の傍ら多忙な日々を送っている。



江森：浦久保さんとは2004年の全国青年印刷人協議会（全青協）で、お互い副議長として活動させていただいたのが縁で、

今では浦久保さんは大阪の、私は神奈川の印刷工業組合理事長として、また全印工連CSR推進委員会の委員長・副委員長として、さらにMUD協会の理事長・理事としてなど、あちこちで一緒になりますね。

浦久保さんは広い意味でのダイバーシティの活動を熱心にされているという印象ですが、そもそもそのきっかけは何だったのでしょうか。

浦久保：大阪青年会議所（JC）の理事だった1997年に大阪で国体が開催されたのですが、国体の後に開催される国体版のパラリンピック「全国身体障害者スポーツ大会」の後夜祭を、恒例にならって大阪JCが企画し、私が実行委員長を務めました。

その際にパラスポーツを初めて観戦し、参加選手と交流したのがきっかけです。

江森：私もJCがきっかけでCSR普及の活動を続けていますが、良くも悪くもJCは影響力がありますね（笑）。現在浦久保さんが理事長を務めているアダプテッドスポーツサポートセンター（ASSC）の主な活動を教えてください。

浦久保：国体の後、後夜祭に関わったメンバーを中心に、もっとパラスポーツ選手への支援をしていこうという気運が盛り上がり、そこで学校・企業・地域と協力し、

高齢者・障害者のスポーツ（アダプテッド・スポーツ）の振興を通じて障害のある人とない人が共に生きる「ノーマライゼーション社会」の実現を目指して、2006年にASSCを設立しました。

具体的な活動としては、アダプテッドス

ポーツ分野において顕著な活躍をされた個人、団体に対する報奨金付きのアワードを民間団体として初めて実施しました。その

中には当時はまだ知名度が低い選手やチームもありましたが、その後パラリンピック等の大きな大会で活躍しメダルを獲得した選手もたくさんいます。また、体験、参加を通してパラスポーツの楽しさを知ってもらおうと風船バレーボール大会やボッチャ大会を開催し毎回50チーム、500名を超える方々にご参加いただいています。

最近の活動としては、4年前に、当初の東京パラリンピック開催日であった8月25日を「パラスポーツの日」と制定し、気運を盛り上げるためのイベントの開催やクラウドファンディングを行ってきました。その活動の一環としてシンガーソングライ

ターの中西圭三さんをお願いし、パラスポ

ツ応援歌「beginning」を作っていただきました。

江森：2006年というと浦久保さんが全青協議長だった年ですね。障害者スポーツの活動とユニバーサルデザインの活動が重なっているところが興味深いです。浦久保議長のとくにこれまで全青協で取り組んでいたカラーユニバーサルデザイン（CUD）の活動を、「メディアユニバーサルデザイン（MUD）」として領域を拡大しましたね。このときの経緯を教えてください。

浦久保：情報通信技術の進展により、情報へのアクセスは大きく改善され、情報の受発信におけるバリアも小さくなりつつありますが、そのことがかえって健常者と障害者の情報格差を拡大させてしまっただけが出てきました。またIT技術の進展だけでは情報アクセスをカバーできない範囲も依

は情報アクセスをカバーできない範囲も依

然として数多く存在します。

全ての人の知る権利を保障するためには、情報を受け取る権利と情報を発信する権利が保障されていなくてはなりません。つまり「情報の最適化」が求められるわけです。そして「最適化」を実施するためには障害の種類に応じて異なる不便さを充分に理解し、それぞれに対して適切な対応がなされなければなりません。CUDは色の不便さを解消する技術ですが、情報アクセスにおいて不便と感ずる点は色だけではないので、その領域を「視覚の不便さ」全体に広げて「MUD」にしようと考えたのです。私たちが日常目にするデザインを構成するすべての要素において、配慮すべきポイントを5つの観点「5原則」で定義しています。えもちゃんも一緒にやっただからよく知ってることですが（笑）

江森：ずいぶん昔のことのような気がします。NPOの立ち上げやりましたね。「5



原則」も考えました。懐かしい…（笑）

その頃のMUDから考えると「情報保障」という進化した考え方はとてもいいと思いますね。MUDの目的というか、MUDが必要とされる社会的な必然性を表している言葉だと思えます。

「情報保障」が求められる現代における情報発信者の責任とはどのようなものだと考えていますか。

浦久保：「情報アクセシビリティの向上」においては、視覚や聴覚などの障害をもって人と併せて、発達障害などにも対応が期待されるようになりました。「情報保障」というのは、その概念を一步進めて、障害の有無に関係なく、すべての人が情報を利用でき活用できることを保障する取り組みです。それは「見やすい情報デザイン」から「理解しやすい情報デザイン」への進化ということですね。

江森：障害者差別解消法で定義されている「情報アクセシビリティの向上」はあくまで障害者に向けてのもですが、障害の有無に関係なくとすることで、本来の意味でのユニバーサルデザイン、多様性を尊重するダイバーシティの取り組みになりますね。

高齢者や障害者への情報発信ということでは、行政がMUDに配慮することはもはや必須であるように思いますが、行政にはどの程度浸透しているのでしょうか。

浦久保：障害者差別解消法においても国・自治体などには障害のある人に対する差別的扱いを禁止しています。さらに、東京2020オリンピック・パラリンピックを契機として、全国にユニバーサルデザインの街づくりや心のバリアフリーを推進して

いくため、政府も「ユニバーサルデザイン2020行動計画」を発表して、老若男女・国籍・障害の有無を問わず、全ての人に配慮した思いやりのあるデザインの提供を推進しています。

最近では公共調達にMUDの導入を条件付ける自治体が登場するなど、行政の理解も進んでいます。

江森：一般の方への普及ということでは、この度リリースされたオフィスソフトのMUDには大いに可能性を感じますね。

浦久保：現在オフィスで最も使われているマイクロソフト社製のワード、エクセル、パワーポイントにMUDの理論と技術を導入しました。「MUDテーマカラー」や「MUDカラーパレット」という独自ツールは、日本人男性の20人に1人と言われている色覚障害者だけでなく、高齢者にも見分けやすい色選びが簡単にできるソフトウェアです。ビジネス文書や、広報紙、チラシ、個人で作成する文書などに応用していただけたらと思っています。

江森：一方で印刷業界にはプロとしてのさらに高度なノウハウが求められます。プロの育成についてはどのように考えていますか。

浦久保：MUD協会では、2011年より教育検定を開始し、「MUD教育検定」の3級と2級のコースを開設。MUD教育検定3級は、これまでに5500名を超える方々が受講されています。2021年2月から、対面型に加えWebでも受講できるコースを開設しました。それに合わせ、最新情報を含む教材に改訂しコース名も、従来の3級・2級から「MUDアドバイザー検定」

「MUDディレクター検定」に変更しました。一定水準以上の知識・技術を身に付けたと認められる受講者には認定資格を与えるなど、さまざまなニーズに応えられるプロの育成を進めています。

江森：MUD協会が目指す社会はどのような社会でしょうか

浦久保：MUD協会は「やさしい、まなざし計画」をスローガンに掲げ、2008年1月に設立。高齢者・障害者・色覚障害者などを含め、誰もが使いやすく見やすいデザインの提供を通して、暮らしやすい社会の構築に寄与してきました。社会の発展とともに役割も高度化し、情報保障を担うことが使命であるという位置づけに変化してきました。情報発信者やデザイン制作者がMUD配慮を行うことで、より多くの方々に情報がわかりやすく伝わり、安心で平等な社会が形成されることを目指しています。

江森：浦久保さんは現在全印工連のCSR推進委員会委員長でもありますが、CSRを進めていく上でMUDが果たす役割についてはどのように考えていますか。

浦久保：CSRはこれからの時代に企業がもつと真剣に考えていかなければならないことだと思えますし、その背中を押してくれる全印工連CSR認定制度はとてもすばらしい制度だと思いますが、とつきにくいというのも事実だと思います。MUDは地元行政や地域社会と同じ目的意識をもって取り組み、なおかつ新しいビジネスチャンスにもなるという点で、とてもわかりやすい。CSRの入り口としてぜひMUDを活用していただき、地域と印刷会社の互恵関係を作って欲しいですね。

毎日ラジオ、深夜に YouTube、週末レコード、たまにフェス

竹見正一

4月5日/月曜日/11時

昨夕のニュースで池江さんの東京オリンピック出場権獲得を知った。打ち合わせに向かう公道は桜満開、頬を撫でる風も緩く、そう言えば昔、この季節からプールに入っていたな、と思う。中学に上がり水泳部に入部した日、1年生は皆、ジャージのままプールに放り投げられた。その日から朝練含め毎日4時間くらい水の中。コーチは竹刀を振り回す。不条理を冷静に問いたです暇もなく、下校時にウォークマンで聴くジギー・スターダストとともに、朦朧とした日々を受け入れていた。ただ、タイムだけはメキメキ速くなった。あつという間に夏になり、4日間の夏季休暇を迎えた。待ちわびた休暇であったが、もちろん瞬間に過ぎ行き、さあ、練習再開の日。え？水が軽い。とにかく軽くて、前に進まない。たった4日間泳がなかっただけで。先輩はこうなるのが嫌で、休暇中も泳いでいたと言う。私はタイムを元に戻すためにそれから半月も費やし、夏期後半の試合は散々な結果になった。

池江さん、おめでとうございます。最高にかっこいいです。次のパフォーマンスも楽しみにしています。



“新しい空に 上昇する心 刻み出すビート
もう何でもできそうな気分”
曲：朝の光 (fanfare)
□□□

4月11日/日曜日/14時

眠いはずが、そうでもない。昨夜は全く寝ていないのだが、世田谷に向かう心地よい電車の中で座っていても、頭は冴えている。それは松山さんが3日目終了時点で4打差トップのせい。ほんまかいな、こんなこと。胸の高鳴りを落ち着かせるため、イヤホンへのボリュームを上げる。My Bloody Valentineのガリガリとおかしな共鳴が気持ちを平坦にしてくれる。でもでも、それでも気になる今夜の最終ラウンド。一昨年他界した父が、ハワイアンオープンを観て泣きながら酒を飲んでいたので思い出す。あの日以上の瞬間がまた本当に訪れるのか。勝て、勝ってほしい。でも。日タリスクヘッジぜんまいの私は、ネガティブ要素ばかりを発掘してしまう。あかんな、あかん。青木が全米オープンでニクラウスに勝つと信じていたあの気持ちを思い出そう。



“花束片手に走れよ、会いたくなったら
会いに行きなよ”
曲：会いにいけ! (片手に花束を)
インナージャーニー

「MUDアドバイザー」オンライン検定がスタート

障害者差別解消法の施行から5年が経過し、駅へのエレベーター設置や総理大臣記者会見での手話通訳など、私たちの身の回りでも障害者への配慮が当たり前になってきました。情報分野における障害者配慮の手段としては、印刷業界発のメディア・ユニバーサルデザイン(MUD)が注目されますが、今年2月よりNPO法人メディア・ユニバーサルデザイン協会主催の「MUD教育検定」のオンライン受検が始まりました。

MUDは弱視者・色覚障害者など、視覚に障害のある方だけでなく、高齢者・強度の近視(遠視)など見ることに何らかの不自由がある方、外国人・子どもなど漢字の読みや日本語の理解に困難がある方など、目から情報を得る際に、誰もが同じ情報を得ることができるよう「デザイン上の工夫をすることを目的とした技術で、2008年に始まった「MUD教育検定」合格者に与えられる「MUDアドバイザー」有資格者は5500名にのびります。

MUD教育検定には以前から遠隔地受検の要望がありましたが、昨年来の新型コロナウイルスの影響もあり、これまでの集合型検定に加え、自宅や職場からでも受検できるオンライン検定を実施することになり、名称も「MUDアドバイザー検定」にリニューアルしました。印刷業関係者に限らず、書類やチラシなどを作成する一般の方にも役に立つ知識ですので、ご興味のある方は「MUDアドバイザー」に挑戦してみたいかがでしょうか。

自宅やオフィスから、いつでも受講・受験可能!
2021年2月1日スタート!

MUD オンライン
受検 & 受験

オフィス文書のユニバーサルデザイン講座
MUDアドバイザー検定

特定非営利活動法人、メディア・ユニバーサル・デザイン協会 (MUD協会) は、2021年2月1日より「オフィス文書のユニバーサルデザイン」(MUDアドバイザー検定) (旧MUD教育検定3級アドバイザー) をパソコン、スマートフォン、タブレットで受講・受験できる「オンライン受検・受験」をスタートしました。

2021年2月1日(月)～8月31日(火)の期間中
オフィス文書のユニバーサルデザイン講座 受講料
11,000円 [税込] ▶ 7,700円 [税込]
MUDアドバイザー検定 受験料
一般: 19,800円 [税込] ▶ 18,150円 [税込]
学生: 6,600円 [税込] ▶ 6,050円 [税込]

オフィス文書のユニバーサルデザイン講座
MUDアドバイザー検定

メディア・ユニバーサルデザイン (MUD) とは
Media Universal Design (MUD) とは、さまざまな種類の障害者、障がい者、高齢者、外国人などに、受け入れ、受け取りやすい環境を構築することです。障害者や障がい者、高齢者、外国人など、さまざまな障がいを持つ人々が安心して生活できるように、MUD教育検定を行うことで、より多くの障がい者や高齢者が安心して生活できるようにしています。

あなたの知らない ふおんとのはなし

第五話 楷書体

楷書体とは手書きの筆文字風の書体で、挨拶状や名刺などでよく見かける書体です。役所の申請書類には必ず「楷書体で丁寧書いてください」などと注意書きがあるように、楷書はすべての書体の基本のように扱われていますが、これには興味深い歴史があります。行書や草書という崩し字をご存知と思いますが、皆さんはあれは楷書を速く書くためだんだん崩れていったものと考えているのではないのでしょうか。でも実は楷書が誕生したのは行書や草書よりも後のことなのです。歴史をたどると、甲骨文から金文が、金文から篆書体が、篆書体の省略体として隷書と草書が、そして草書から行書が生まれ、最後に楷書が生まれたのです。崩れたものの方が先というのはなんだか不思議な感じがしますが、それまでの書体のエッセンスがすべて注ぎ込まれた最後の書体である楷書体が基本書体といわれる所以です。

現在では各メーカーからさまざまな楷書体が販売されていますが、基本のデザインは日本の活字の源流といわれる築地活字の正楷書体を元にしてるように思われます。草かむりの真ん中が離れているデザインは築地活字のもので、現在でもいくつかの楷書体でこのデザインが踏襲されています。この、くっついているか離れているかというのは、第二話でお話した「字形」の違いで、どちらも間違いではありません。印刷会社としてはいちいち作字をしなければならなくなるので困った問題のひとつです。

楷書体の派生書体もたくさんありますが、代表的なものが「教科書体」です。文字通り教科書に使われる書体で、止め、はね、はらいといった書き方が、通常の楷書体よりも学習指導要領に忠実に再現されています。書き順ごとに文字を分解した「筆順フォント」というものも存在します。モリサワの「UDデジタル教科書体」は、発達障害の子どもに対しても可読性が向上することが学術的にも証明されており、Windows 10の無償アップデートで利用できます。

コロナ禍でもキャリア教育支援！ 六つ川小学校ではまっ子未来カンパニー

2020年度キャリア教育支援の取り組みとして、横浜市立六つ川小学校にて絵本制作のお手伝いをしました。今回はなんと小学3年生！3年生つてどのぐらい漢字読めるんだっけ?!などと不安だらけのスタートでしたが、大人たちの心配をよそに、子どもたちは素晴らしい集中力を発揮。半年間かけて地元六つ川の町の魅力を伝える絵本「六つ川のまちで見つけたよ〜いいところ・大好きなこと〜」を完成させ、近隣の自治会などに配布することができました。



寄付月間2020公式認定企画 寄付つき感染予防冊子 結果報告

前号でお伝えした寄付月間2020公式認定企画の「寄付つき感染予防冊子」の販売を昨年末に実施しました。

『寄付つき版 感染予防のために、できること』は、2020年12月限定で4052冊販売し、1冊につき5円の合計20,260円を「神奈川こども食堂・地域食堂ネットワーク」に寄付することができました。たくさんのご協力ありがとうございました。

後日、寄付金は同ネットワーク主催の、子どもの性教育や性被害への対応についての勉強会開催費用として有効に活用されたことを報告いただきました。



神奈川こども食堂・地域食堂ネットワークの米田佐知子さん

「かながわ再エネ電力利用事業者」認定

昨年自社の使用電力を再生可能エネルギー100%に切り替えたことを受け、この度神奈川県が主催する「かながわ再エネ電力利用応援プロジェクト」において再エネ電力利用業者に認定されました。菅総理も2050年カーボンニュートラルを宣言している通り、「脱炭素」は世界共通の課題です。まずは神奈川からカーボンニュートラルが広がっていくことを期待します。



情報セキュリティ理解度テストを実施

社員の情報セキュリティ知識向上を目的として昨年より実施している理解度テストを今年も実施しました。テストは情報処理推進機構（IPA）が無料で提供している「5分でできる！情報セキュリティ自社診断」を利用。平均点は昨年の65点から85点へ。25問中全社員が理解している設問が3問から10問へと理解度の向上が見られました。

昨年のテスト実施後、点数の低かった項目を中心にセミナーを実施した効果もあつたと分析していますが、意外な項目で点数が低かったりと、情報共有がまだまだ不足していることも分かり、さらに改善に向けて取り組んでいきたいと考えています。

【5分でできる！情報セキュリティ自社診断】
オンライン版 <https://security-shien.ipa.go.jp/diagnosis/>

JO（ジェイ・オー）2021年4月号（第35号）
発行者：株式会社協進印刷
横浜市神奈川区大口仲町108番地
TEL：045（431）6611
FAX：050（3730）6273
URL： <http://www.kyoshin-print.co.jp>

